



MESSAGE NOTES

捧げる心

第一コリント人への手紙 13:3

ブラウン・ジェームズ

第一コリント人への手紙 13:3 たとい私が持っている物の全部を貧しい人たちに分け与え、また私のからだを焼かれるために渡しても、愛がなければ、何の役にも立ちません。

私たちの与える動機は、いつも愛からのみであるべきです。与える動機は他にも色々ありますが、大切なのは、この「愛から」だけです。

1. 見られるためではない

マタイの福音書 6:3-4 あなたが施しをするときは、右の手がしていることを左の手に知られないようにしなさい。あなたの施しが、隠れたところにあるようにするためです。そうすれば、隠れたところで見られるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

与えることの動機が、誰かに見られたい、認められたいというのだけであれば、愛から与えているではありません。与えたことを自慢するなら、すでに報酬を受け取っています。

2. 欲からではない

ルカの福音書 6:35 しかし、あなたがたは自分の敵を愛しなさい。彼らに良くしてやり、返してもらうことを考えずに貸しなさい。そうすれば、あなたがたの受ける報いは多く、あなたがたは、いと高き方の子どもになります。

見返りを期待して与える時、実際には欲から与えていることになります。愛は見返りを求めません。

3. 義務からではない

第二コリント人への手紙 9:7 一人ひとり、いやいやながらでなく、強いられてでもなく、心で決めたとおりにしなさい。神は、喜んで与える人を愛してくださるのです。

神様はわたし達が“そうしないといけないから”ではなく““そうしたいから”与えたり仕えたりすることを望んでいます。自分から進んで、喜んでそうして欲しいのです。

私たちが愛から惜しみなく与えることができる唯一の理由は、私たちが惜しみなく愛してくださる神様を信じるからです。神様は、私たちが神様との愛の関係の中で歩むことができるように、神様の最も大切なもの、ご自分の独り子を私たちのために与えてくださいました。私たちに対するこの神様の愛が、私たちから周りの人々へと溢れ出すのです。